

## 二条大麦「ニシノホシ」の適正栽培法

農業研究センター 農産園芸研究所 作物部・球磨農業研究所  
担当者:堀 孝弘・山戸陸也

### 研究のねらい

二条大麦は、菊池地方・球磨地方を中心に生産されており、その多くが焼酎醸造用である。  
平成11年度に奨励品種に採用された二条大麦「ニシノホシ」は、澱粉価が高く、醸造用として期待されている。このため、合理的な施肥量並びに播種量、播種時期について検討し、「ニシノホシ」の良質・安定多収栽培を推進する。

### 研究の成果

- 1 播種時期は11月20日頃が最も良い。
- 2 播種量は、6kg / 10a程度とする。
- 3 施肥法は、菊池地域では、窒素成分量で基肥5kg/10a、追肥として1月下旬に2kg/10a、2月下旬に2kg/10a施用する。  
球磨地域では、基肥5kg/10a、2月中～下旬に追肥2kg/10aを施用する。
- 4 被覆尿素肥料(緩効性窒素率40%、畑地での窒素溶出が85日タイプ)を窒素成分で7kg/10a全量基肥施用すると慣行施肥法と同程度の収量を得ることができる。

以上の栽培法を実施することで安定した収量と品質の高い「ニシノホシ」を生産することができる。

### 普及上の留意点

- 1 早生種なので、霜の害を受ける可能性があるため極端な早播きは避ける。
- 2 播種時期が12月以降になると収量が低下するためできるだけ適期に播種する。
- 3 やむをえず播種時期が遅くなる場合(11月下旬～12月上旬)はやや播種量を増やす。

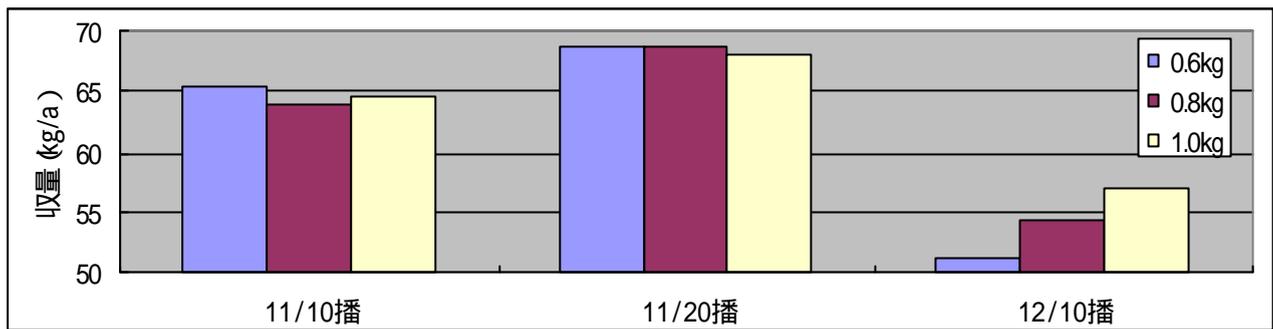


図1 播種期・播種量による収量の変化

注) 球磨農業研究所 平成11年～平成12年産(凡例はa当たりの播種量)

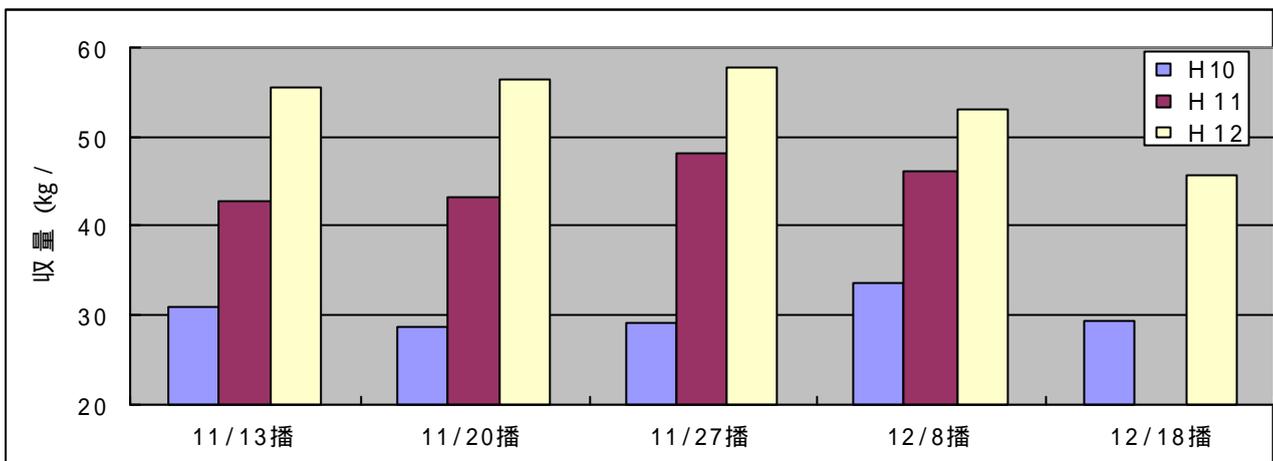


図2 播種時期による収量の変化

注) 農産園芸研究所 播種量0.6kg/a

表1 施肥法による生育及び収量の比較

試験区名		稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/㎡)	出穂 期 (月・日)	成熟 期 (月・日)	倒伏 程度 (0~5)	子実 重 (kg/a)	同左 比	容積 重 (g/l)	千粒 重 (g)	検査 等級 (1~9)
農 産 園 芸	慣行	94	6.6	673	4.4	5.16	1.3	41.3	(100)	639	42.7	4.3
	基肥多肥	95	6.7	722	4.5	5.16	2.1	39.9	96	608	41.9	4.9
	追肥多肥2回	93	6.5	639	4.4	5.16	1.3	38.5	92	652	42.4	4.6
	追肥多肥	93	6.5	659	4.4	5.16	1.2	36.9	89	657	42.8	4.4
球 磨 農 研	慣行	89	6.7	827	4.4	5.18	1.7	45.6	(100)	625	36.9	4.7
	基+追肥1回	88	6.7	687	4.3	5.19	1.4	46.3	103	628	38.6	5.0
	基+追肥2回	93	6.8	813	4.4	5.19	2.1	44.6	99	619	37.1	6.5
	基減+追肥2回	90	6.7	733	4.4	5.19	1.2	45.0	100	629	38.5	6.0
	LP-B40(7kg)	89	6.7	740	4.4	5.17	1.2	45.2	100	625	38.2	5.8
	LP-B40(9kg)	89	6.8	779	4.4	5.18	1.2	44.7	99	624	38.4	6.0

注1) 播種日: 農産園芸 11月19日、球磨農研 11月20日

播種量: 農産園芸 0.6kg/a、球磨農研 0.6kg/a

施用量: (基肥-1下-2中-2下) 5-2-0-2, 7-2-0-2, 5-4-0-2, 5-4-0-0, 5-0-2-0,

5-0-0-2, 5-2-0-2, 3-2-0-2, 7-0-0-0, 9-0-0-0(数値は窒素成分量kg/10a)

注2) 数値は平成9年～10年産の平均値